



森のなかま

2022年1月号
NO. 163 (継続308号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

新年あけましておめでとうございます

理事長 佐藤 恭平



皆様には健康で明るい良き新年をおむかえになったこととお喜び申し上げます。

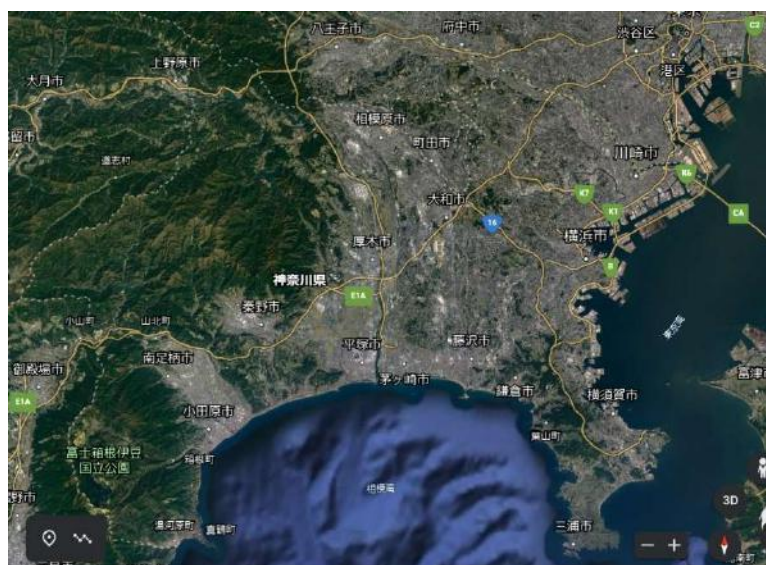
2020 年 2021 年と 2 年もの間、新型コロナウイルス禍に振り回され続けてきました。沈静化したかに見えますが、依然として感染拡大への警戒は怠ることはできない日々です。

一方、この 2 年間、アフターコロナの新しい日常や脱炭素社会への意識変化が加速されたことを感じています。人々の間では、お一人様キャンプブームに代表されるアウトドア志向やリモートワークを利用した大都市から自然の中の郊外や地方への脱出が、企業や政府では脱炭素化をキーワードに技術や設備への資金投入が、メディアで取り沙汰されています。

神奈川県ではこれまで「水源涵養（水資源確保）」と「土砂災害防止」という森林の持つ機能に主眼をおいた森林施策がなされてきましたが、

このお正月には、「地球環境保全（炭素固定による温暖化緩和）」や「物質（材料・原料・燃料）生産」という森林の機能にも着目して、世界有数の森林国である日本ならではの地球環境にやさしい森林資源循環型社会を大きな初夢としてはいかがでしょうか。

本年も引き続き、当会の活動にご参加、ご支援いただきたくよろしくお願いいたします。



神奈川県の緑の分布

Google earth より

《森林技術部会主催》

間伐研修会（2）

日時： 2021 年 11 月 27 日（土）9：00～15：30 晴れ

場所： やどりき水源林

講師： 森林技術部会 大橋⑪、斎藤⑬、鈴木⑭、石井⑮

部会長： 岩田⑭

スタッフ： 滝澤⑤、小松⑭

参加者インストラクター：10 名

（記 堀口 俊司⑯ 写真 滝澤 洋子⑤ 堀口 俊司⑯）

快晴の秋空と鮮やかな紅葉のもと、やどりき水源林にてインストラクターとして安全な間伐作業の実施と指導ができるようスキルアップを目的とした間伐研修会②が開催された。

準備体操を行い県民参加で使用する間伐道具に今回はスローラインを加え班ごとに分担し研修場所まで移動する。

途中アルミの足場板を簡易橋として川を超える場所が 2 ヶ所あるが、今回は水量も少なく安全に移動ができた。研修場所までは 30 分程度移動となるため、到着するころには薄っすらと汗をかくくらい足腰の準備運動となった。

初めに岩田部会長よりロープ掛けに関する注意点やスローラインの使い方の説明を受ける。

掛かり木が想定されるときには、掛り木となった時点での傾きの角度に合わせたロープの位置、滑車の位置を考慮するなど資料をもとに解説を受ける。

特に支点となる滑車の位置については遠く

に配置しがちであるが、掛かり木の角度によっては近い方が木の軸にかかる力を有効に活用できることも学ぶことができた。また、目

標とする方向に倒すため受口が重要であると養成講座では学んでいたが、今回の研修では受口と共に木の重量・重心も意識することも同じくらい大切であると学んだ。

引手の力と伐倒するために必要な力を比較し引手の人数が不足する場合などは 3 倍力を初めから利用するなど効率よくかつ安全に作業を進めるための知識の重要性を実感した。



高い位置にある枝にスローラインを投げるロープ掛けでは高い位置にある枝に向け実際にスローラインを数回投げることで感覚を掴むことができた。スローラインとロープの結び方次第でロープ掛けがスムーズにできるか大きな差があることも体験した。(右写真 スローラインを投げる)



今回の研修会を通じて間伐の基本的な動作、知識について再確認する機会を得ることができた。

さらに効率性・安全性を向上させるために考慮しておくべき内容を実習を通して発見・習得することができたことは、今後のインストラクター活動に従事していくためにとても貴重な研修だった。



参加者名簿

No.	期	氏 名	班	No.	期	氏 名	班	部会	期	氏 名	班
1	10	大澤斗志郎	1	8	16	小林照夫	2	講師	11	大橋 聡	1
2	11	徳岡達郎	2	9	16	中澤靖彦	4	講師	13	斉藤夏葉	2
3	11	真貝 勝	3	10	16	堀口俊司	1	講師	14	鈴木 淳	3
4	14	牧石 稔	4					講師	15	石井 裕	4
5	14	水野安則	1					部会長	14	岩田典義	
6	15	石垣桃栄	2					スタッフ	5	滝澤洋子	
7	16	大友博道	3					スタッフ	14	小松立史	

《自然観察部会主催》 (丹沢大山自然再生委員会共催)

森林探訪 (丹沢の晩秋を弘法山ハイキングで楽しむ)

日時: 2021 年 11 月 27 日 (土) 9:00~15:30 晴れ

場所: 弘法山

参加者: 16 人

看護師: 青木様

インストラクター: 松永^⑪ 赤崎^⑫ 牧石^⑬ 山口^⑭ 小笠原^⑩ 研修生 久次米^⑯(記 小笠原 多加子^⑩ 写真 松本 保^⑪)

コロナ禍の中で久しぶりの終日活動となった。参加者は 10 代~80 代と幅広く東京からの参加者もいた。3 班に分かれ、水無川遊歩道で軽く体をほぐして弘法山に向かった。小田急線の車窓から見える弘法山は有名であり、当日も大勢のハイカーがいた。



インストラクターは 3 人 3 様で昼食の場所まで楽しい説明を行なって行った。参加者も植物をまじかに見たり 匂いを嗅いだり、写真やメモを取って楽しんでいられた。展望台付近の野鳥観察場ではイカルと遭遇できた方もいた。



途中、なぜかたくさんのハヤトリを見つけ童心に帰った人もいた。

展望は素晴らしく雪の帽子をかぶった富士山はもちろんスカイツリーや大島などの伊豆の島々などをみることができた。イロハモミジの紅葉も素晴らしく、赤く色づいた実のいろいろや冬の準備をした芽も観察することができた。身も心も満たされた森林探訪であった。

おかげ様で今回 100 回を迎えられたことはとても部会としてもうれしいことである。森林探訪スタート時は全て県がコース設定・募集・説明書まで作成しており、当日の説明のみがインストラクターの仕事であったと聞く。

自然観察部会の歴代のメンバーのおかげで今はコース設定から全て部会で行なっている。コースは同じところであっても行く季節やルートなどによって毎回観察されるものが変化してくるのも楽しいものである。200 回を目指してこれからもがんばっていききたいものである。

**<インストラクター感想>**

●サボテンのところで葉 (とげ) 光合成 (CAM 型光合成) の話をした。ヤブニッケイの葉をちぎって香りをかぎつつ、ニッケイやシナモンについての話もすすめた。ハクサンボクは葉を落としてから冬芽があらわれるので葉柄内芽の現物を見ながら説明を行なった。ヤブランの種子のスーパーボール、カタバミの 10 円磨きといった遊びも楽しんだ。(記 山口 正志^⑭)

●研修生として参加しました。汗だくで登った浅間山でみた富士山に感激! 権現山での昼食時どこかで話してみませんか? と進められましたが準備不足で即答できませんでした。荒れた人工林の前で声をかけられ思いつくままお話ししました。ぶっつけ本番の至らない話に参加者は 100 点をつけて下さいました。参加者の優しさに支えられ長い山道を楽しみました。同時に私の課題に気づきました。(記 久次米 久美子^⑯)

活動短信

今回の掲載は R3 年 10 月 30 日から 11 月 10 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

1 月(睦月)(旧暦 12 月師走)の

二十四節気と七十二候

小寒 1/7 頃

セリが育ち、氷の下の
泉が動き出す。キジが鳴
き始めるころ

大寒 1/21 頃

フキノトウが出て、沢に
は氷が張りつめる。
鶏が卵を産み始めるころ

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので)
写真もあれば添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、☒ 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

☒ インストラクター① (○数字:期) ☒ 研修枠

以下、本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ やどりき事業部 植物班

日 令和 3 年 10 月 30 日(土) 晴れ

場 寄バス停→土佐原林道→三廻部林道

参 4 名 水口⑨、上宮田⑪、鶴井⑬、飛田⑮

当初、散策コースは雨山峠往復を予定していたが、登山
道が危険であるとの情報も入り、急遽、寄周辺散策と
し、まだ踏査していない土佐原林道に予定を変更した。

寄バス停からいつものロウバイ園、土佐原の枝垂桜



のそばを通り、ウドの花、ヤマハッカが多く見られ、
さあこの先どんなコースなのかを、胸を膨らませて進
む。

トリカブト(花)、シオデ(実)、ツリフネソウ
(花)、ガマズミ(実)、ツリガネニンジン(花)、ト
チノキの紅葉、ヨモギハシロケタマフジ(虫こぶ)、
スズメウリ(実)など観察され、右手にゴルフ場をや
り過ぎると秦野方面の景色は最高!左手に乗馬クラブ
が、その先の住吉神社でお参り。四十八瀬川まで下
り、今度は三廻部
林道を目指し、北
上。その途中に三
廻部林道の起点標
識を過ぎ、ヤク
シソウ(花)の群
落、クサギ(実)
に出会えた。そし

てしっかりこの周辺が「水源林森づくり」契約地であ

る看板も見つけた。表
丹沢県民の森の手前を
V 字に折り返し、三廻
部林道のゲートを過ぎ



て昼食。再スター
ト間もなく、なん
とカモシカに出会
へ気分は最高!リ
ンドウ(花)、ツ

リガネニンジン(実)、クサギ(実)、クサボタン
(実)、コウヤボウキ(花)、色とりどりの紅葉が日差
しに映える。鍋割山行き登山道との出会い地点から寄
バス停方面へ戻る。この間コウヤボウキ(実)が多く見
られた。

コースとして 10.5Km、6 時間弱で少しハードであつ
たが多くの発見があり、新たに散策コースを開拓でき
た喜びで一杯であった。(記 写真 水口 俊則⑨)



◆ 横浜市立東中田小学校 愛川体験学習～間伐体験～

日 令和 3 年 11 月 5 日(金)9:50～12:50 晴れ
場 相模原市緑区 長竹承継分収林
参 大人6名、子供84名、計90名
財 豊丸課長、古舘様
イ L 牧石⑭、佐藤⑤、小野⑦、内野⑨、松山⑩、
 松本⑪、西出⑫、堀口⑬、岡村⑯

本日は、秋晴れの絶好な活動日となりました。
 バス到着後、児童が降車すると、すぐに班単位で移動を開始。途中道具置き場にてヘルメット、フェイスシールド及び鋸を装備し、間伐場所へ向かいました。

到着後、森の働き、間伐の目的及びその手順の説明を行い、間伐に着手しました。



まず、倒す木を選別し、伐倒方向の決定、足元の整理及びロープ掛けを行ったのち、大鋸による受け口及び追い口を切る作業に着手した。「小学校の作業時間の中で鋸を使用した経験はある」ものの、水平切、斜め切は初めてであり、はじめは思うように引け



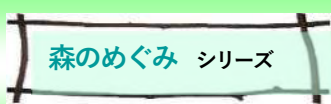
ませんでした。終わりのほうでは、上手に使えるようになりました。

ロープを引く掛け声と共に、「ドスン」

という大きな地響きがして木が倒れ、歓声が上りました。その後枝払い、玉切り、コースタ作りを行い、森を後にしました。

安全目標「足元注意」のもと、作業場所の確保、作業場所の整理等により、全員ケガもなく間伐体験ができました。(記 岡村 寛⑯ 写真 牧石 稔⑭)

森のめぐみの掲載は、
 今月号はありません。
 次掲載は2月号です。



◆ 横浜市立相沢小学校 七沢宿泊体験学習

日 令和 3 年 11 月 8 日(月) 9:30～13:00 晴れ
場 県立七沢森林公園(厚木市)
参 122 名(小学 4 年生 57 名、5 年生 52 名、
 教師等 13 名)
イ L ⑪松本 ⑦小野 ⑫西出 ⑬松石 ⑭牧石
 ⑧野牛 ④柏倉 ⑤森本 ⑪松永 ⑮石垣 10 名

早朝の雨降りに心配されたお天気でしたが快晴の下、絶好の探索日和となりました。

前日、七沢ふれあいの村に宿泊し宮ヶ瀬ダム見学やラリーを体験した皆さんの2日目。4年生・5年生混合の10班が事前学習をし、また5年生が家庭科の時間に手作りし4年生と先生方に贈ったフェルト製のワッペンを胸に勢揃いです。

舗装路を歩き始め、木々の違いを観察。小休止した眺めの良い広場では、向かいの紅葉し始めた森に「ヤッホー!」と叫びましたが残念。返って来ませんでした。(山もコロナ禍では大声で返せませんか?)

再び歩き始めると、木の根の露出が続く山道となり「ワッあぶない」「すごいな」の声が上がります。

注意の声を互いにかけてながら進み、クヌギ・コナラの樹皮に触れながらの登り道。

ようやく展望台に着くと見晴らす市街・はるか彼方に見えるランドマークタワーに歓声が上がりました。

ナラ枯れの様子・モミの大樹・ホウの葉の大きさに驚く声、発見が続きます。



昼食の後は、各インストラクターによる講和の時間となり、水源林の働きや大切さ・今触れている秋の自然を皆で楽しみ・感じた後に閉会となりました。

(記 石垣 桃栄⑮)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 第 12 回 県民参加の森林づくり 茅ヶ崎里山公園 除伐

日 令和 3 年 11 月 10 日(水) 9:30-15:00 晴れ

場 茅ヶ崎市芹沢 茅ヶ崎里山公園

参 53 名

市 都市部みどり課 2 名

財 豊丸課長 大木さん 倉野さん

看 佃さん

公園協会 浅岡園長 他 3 名

1 L 柏倉④ 滝澤⑤ 佐藤⑤ 稲辺⑤ 野牛⑧ 久保⑧
高橋⑨ 徳岡⑪ 渡辺⑫ 東⑫ 北村⑬ 黒川⑭
大岡⑮ 大友⑯ 武田⑯ 小林⑯

前日は寒冷前線の南下の影響で集中豪雨に見舞われたが、当日は天気予報通り晴天に覆われ、秋の活動日和となった。観光地で紅葉の便りが聞かれる中、茅ヶ崎はまだ先の様でさすが湘南の威力を発揮した陽気に包まれた。

参加者は 53 名、インストラクター等 24 名の総勢 77 名が揃っての活動となった。

この公園で活動している里山公園倶楽部は、今年は設立 16 年目、現会員数 366 名で構成されている。県立里山公園 36ha の内、谷の村にある谷の家を中心に 8.5ha を活動エリアとしている。本日は、その中の雑木林西と呼ばれている 0.6ha の孟宗竹の除伐を行った。参加者を 5 班に分け、1 班を先頭に時計と逆回りに 9:30 から 12:00 まで作業をした。今日の安全目標「伐倒時の掛け声励行」は、狭いエリアに 8m 以上の竹が密集しているので大きな声で声掛けを励行して、事故の無いように作業に集中して行った。終わって集計すると伐採竹数は約 190 本以上の成果で雑木林の林床に太陽の光が当たる明るい広場が現れたことに参加された皆が感動されていた。



林内に、樹林指標種(自然に生息生育する代表的な種)のオオハナワラビは、黄色テープで囲われて保護されて

いたので、注意して作業した。引き続きワラビの成長の妨げにならぬよう注意したい。

伐採された孟宗竹は 3m に玉切りされ、竹の山ができた。翌日県協会の方が大型竹チップperを持込みチップの山に変わっていた。私が担当した班は、正面奥に位置する山際の斜面に径 10 センチ以上の孟宗竹が密集して繁茂する危険個所だったが、参加者に、里山公園倶楽部設立時に関わった方や藤沢で活動の指導をされている現役の猛者が集まっていたのでそれぞれの方が孟宗竹の傾斜をしっかり見定め、お互いに声掛け合いテキパキ作業されたこともあり、事故無く終えることができた。私たちの班には茅ヶ崎市都市部みどり課のお二人も作業に加わって頂きました。

風を避けて昼食を青空の下で摂った後は、パークセンターで 2 団体「茅ヶ崎里山公園倶楽部」と「柳谷の自然に学ぶ会」による活動報告が行われ、質疑応答も出るなど真剣に講和に聴きいって居られた。



茅ヶ崎里山公園倶楽部には投稿者の小林は会員として里山保全活動に足を運んでいる。古くから九十九谷戸として市民から守られてきた柳谷には豊かな自然が今でも多く残っており、自然観察も取り入れた作業活動を今後も継続したいとの感想で、今後も里山公園での活動を希望される声が多かった。

(記 小林 照夫⑯ 写真:財団 大木氏)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。

全国で 5 番目 / NPO 法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、12 月～2 月までお休みになります。

森の案内人はおりませんが、やどりき水源林を訪れることはできます。

「やどりき水源林ニュース」

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

●問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP 担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫 (11 月号から)

Mail: kobayashi@ts-pocket.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★2022 年を迎えました。今年こそ、コロナを過去のものとし、残り少ない人生を有意義に過ごしたいものです。まずは健康第一。次に体力の維持。ボケ防止の脳活動。世界の歴史と現状の認識。そして未来への想い。したいことは山ほどありますねえ。皆さんも「一年の計は元旦にあり。」ですね。(吉田)

★冬鳥の季節になりました。今年もベニマシコやマヒワに会えるでしょうか? 鳥との出会いも一期一会、同じ場所で出会うことはめったにありません。ふとした山道で出会い、カメラを持っていなかったことを悔やみます。往来規制のない鳥はどこでも行けていいなあー! (武田)

★今年からお正月飾りの鏡餅をガラス細工に変えました。それは、直ぐにカビが生えるからです。昔は細かくして油で揚げてアラレを作っていましたが、カビの生えかたが尋常ではないので捨てます。こんなところにも地球温暖化を感じてます。

(笠原)

★先日報道がありましたが、ナラ枯れ木の倒木、枝落下が相模原の公園で問題になっているようです。私のかかわっている鎌倉の公園でもナラ枯れ発生から 2 年がたち、倒木の恐れのある木が数多く見られます。市や公園管理者は、カシナガ対策は諦めています。倒木の被害を防ぐため、市民活動で枯れ木を切っています。ただ、ナラ枯れの木は太くて巨大なので伐倒も簡単ではありません。(黒川)

会員の皆様からの寄稿

「私の初心」

今年の 10 月より、「森のなかま」別冊の編集の担当を任せられ、感じたことを報告いたします。

登山に興味を持ち学生時から始めたが、会社時代は森林活動に無関係な職場に長く関わったので全く忘れかけていました、定年前にガンになり入ベッドから見える山を見ながら、私の最後は山だと使命を感じ、NPO に加入し森林整備を始めました。技術は我流でしたので正しく学びたいと日本と神奈川のインストラクターで学びを得ました。

コロナ禍で活動も後輩もできない中、私の我流に真摯に対峙してくださる先輩達がいまいた。かながわインストラクター会のお役を面倒だと思わず受け入れることで、森林インストラクター業を真に学ぶことができるのではないかと思います。

(16 期 小林 照夫)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで 2000 円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回/1 年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ

加藤優美 阿藤壽孝 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫 武田昭典

中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子